

令和3年度2学期末実施 授業アンケート分析結果教科別総括表

(各項目を5段階の平均値表示) 5 そう思う 4 どちらかといえばそう思う 3 どちらともいえない
2 どちらかといえばそうは思わない 1 そうは思わない

- | | | | |
|-----|--------------------------|-----|-----------------|
| 項目1 | 授業が分かりやすい。 | 項目2 | 進度は適切である。 |
| 項目3 | 生徒全員に注意が向けられている。 | 項目4 | 意欲を持って授業に取り組めた。 |
| 項目5 | 授業を通して、知識や技能・考える力が身についた。 | 項目6 | 学習内容に興味・関心が持てた。 |
| 項目7 | 課題・提出物は期限までに提出している。 | | |

	項目	国語	地歴公民	数学	理科	保健体育	芸術	英語	家庭	商業	電子機械	情報科学
1 年 生	1	4.5	4.4	4.3	4.7	4.7		4.6		4.5	4.5	4.6
	2	4.6	4.5	4.4	4.7	4.8		4.7		4.7	4.6	4.7
	3	4.6	4.4	4.4	4.6	4.7		4.5		4.8	4.7	4.6
	4	4.3	4.1	4.3	4.6	4.6		4.4		4.8	4.3	4.5
	5	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6		4.5		4.6	4.2	4.5
	6	4.5	4.4	4.1	4.7	4.8		4.6		4.9	4.5	4.6
	7	4.7	4.7	4.4	4.9	4.7		4.9		4.9	4.8	4.5

	項目	国語	地歴公民	数学	理科	保健体育	芸術	英語	家庭	商業	電子機械	情報科学
2 年 生	1	4.6	4.5	4.4	4.2	4.8	4.9	4.8	4.9	4.6	4.5	4.1
	2	4.6	4.6	4.5	4.3	4.8	4.9	4.8	4.9	4.6	4.6	4.3
	3	4.5	4.4	4.6	4.5	4.7	4.9	4.8	4.9	4.7	4.7	4.2
	4	4.4	4.2	4.4	4.4	4.7	4.7	4.6	4.8	4.4	4.3	4.2
	5	4.5	4.3	4.3	4.2	4.6	4.7	4.6	4.9	4.4	4.2	4.1
	6	4.6	4.2	4.4	4.6	4.9	4.8	4.6	4.9	4.7	4.4	4.4
	7	4.9	4.5	4.7	4.7	4.9	4.9	5.0	5.0	4.8	4.6	4.5

	項目	国語	地歴公民	数学	理科	保健体育	芸術	英語	家庭	商業	電子機械	情報科学
3 年 生	1	4.5	4.5	4.6	3.4	4.7	4.7	4.9	5.0	4.7	4.5	4.8
	2	4.5	4.6	4.6	3.4	4.8	4.7	4.9	5.0	4.7	4.4	4.7
	3	4.5	4.5	4.6	3.9	4.9	4.7	4.8	4.9	4.7	4.5	4.7
	4	4.5	4.3	4.5	3.6	4.8	4.6	4.7	4.8	4.6	4.3	4.7
	5	4.4	4.3	4.5	3.7	4.8	4.6	4.6	4.8	4.6	4.3	4.7
	6	4.7	4.3	4.7	4.0	4.9	4.6	4.8	4.9	4.8	4.5	4.9
	7	4.8	4.7	4.8	4.7	4.8	4.7	5.0	4.9	4.9	4.7	4.8

教科名 (国語)

全体的に授業の分かりやすさや進捗について高評価で、生徒達が満足して取り組んでいる様子がうかがえる。しかし、4「授業を通して、知識や技能、考える力が身についた」5「学習内容に興味・関心が持てた」の評価が低めである。取り組むことで力についてはついていくので、生徒に受け身なまま終わらせないよう授業の進め方をさらに工夫していきたい。

また、別件で漢字テストの取り組み状況についても調べたところ、1年生の取り組み状況が良くないことが気になった。まだ出題範囲の漢字は易しく、今ここで正確に書くことで、難しい漢字も書けるようになるし、他教科での学習に生かすこともできる。担任の先生方も声かけをしているため、こちらについては教科を越えた協力を続け、生徒の力をつけていきたい。

教科名 (地歴・公民)

1学期末と同様に、授業の進捗や難易度は適切であるとの評価を得たので、授業内容は生徒にあっているが、自ら考える力がついたという評価は比較的低くとどまっており、受け身の学習態度になりがちであるとする。社会の一員としての自覚を育てながら、主体的で深い学びができるよう、生徒が表現する活動をより一層取り入れるよう工夫していきたい。

教科名 (数学)

授業の進捗が遅いという回答がAコースの生徒に多く、授業の進捗が早い(あるいは難しい)という回答がBコースの生徒に多い。Aコースの理解度の高い生徒が継続できるように、全員が行うべきことが済んだ生徒の活動量が増えるような工夫をしたい。具体的には、追加の問題を解かせるなどである。また、Bコースの授業では少人数のメリットを生かし、生徒たちの理解度を確認しながら授業を進めたい。

教科名 (理科)

1・2年とも良好な結果で、概ね授業内容には満足している様子がうかがえる。基礎を大切に、丁寧な授業を心がけていくことが大切だと思う。理解が不十分な生徒に対しても、個別に指導を行うなど丁寧な対応が必要と考える。3年生がやや低い結果となっているが、内容が進学に向けかなり難易度が上がるため、このような結果になったものとする。引き続き、個別指導等で対応していき、希望の進路へ進むことができるように対応していきたい。

教科名 (保健体育)

【体 育】

各種目において個々の能力を発揮している。ほとんどの生徒が積極的に授業に参加している。さらに基礎基本を大切に指導していきたい。全体的には意欲的に授業に取り組んでおり、活気があり、意欲的である。個人、チームとして全体を見ながら主体性を持って取り組んでいる。

【保 健】

自身の健康や将来に関する事で、興味があり意欲的に学習に取り組んでいる特に1年生は、1学期より集中して授業に取り組んでいる。プリントやDVD視聴をさせたり、個人での活動や発表を入れると積極的に活動していた。さらに試験に向けての積極的な学習を期待する。

教科名 (芸術)

【音 楽】

作曲家や曲分析の授業は、教科書だけでなく映像や参考資料を使うことにより、理解しやすく興味を持ってもらえたようである。また、実技は難しいけれど、楽しく、弾けるようになった時の喜びを感じ、グループで協力して取り組むことができた。クラシックの曲や作品に興味を持ってもらえるよう今後も映像などを取り入れ、音楽の良さや美しさを理解し鑑賞する力をつけて欲しいと考える。またギターなどの実技はただ単に演奏するだけに終わらず、その曲の分析をし、豊かな表現力が身につくように授業を工夫したい。

【書 道】

平均的に満足いく点数となっているが、比較すると、授業に関する興味関心や集中して取り組めたかどうかの点数が低いので、そこを伸ばして行きたい。はじめやメリハリをつけ、映像を見せたり、実際に目の前で書いたりすることで、もっと興味関心を高めていきたい。

教科名 (英語)

上記の結果をみても分かるように、全ての項目において生徒の評価は高い。いずれの科目も工夫をしながら、基礎・基本を重視した、わかりやすく、丁寧な授業を心がけている成果であろう。授業の内容においても、進度においても適切だという意見がたいへん多かった。授業に関して生徒個別の要求はいくつかあるが、それらの意見を最大限尊重しながらも、できることとできないこと、やるべきこととやるべきではないことがあるので、しっかりと説明する必要がある。今後の課題としては、いかに学んだ内容を定着させ、英語を学ぶモチベーションを高めてゆかかということに尽きる。「よく分かった」「楽しかった」ということだけで終わらせてはならない。

教科名 (家庭科)

2学期は、2・3年生共に保育・食物分野の学習が中心であった。生徒の意欲向上につなげようと実物やビデオ教材を取り入れる工夫をした。実習では、分割での調理実習を作った。コロナ禍ということも考慮して、自分のものを自分で作るスタイルにした。品数は少ないが、各自がすべての作業を一人で行うことで、意欲も高まり、達成感や問題点などもはっきりとさせることができた。生徒は実習を通して、食への興味が高まり、授業で習ったことを各自の家で実践している様子も見られ、技術の向上にも期待ができる。また、1学期同様にプリント形式での授業が分かりやすく良かったと評価してもらったので、3学期も授業内容や要点が明確で、興味や関心の持てる教材作りをしていきたい。

教科名 (商業科)

3学年全ての平均は4.69で、昨年度1学期末と比べて増加し、高い数値が出ており、商業科としては生徒にとって満足度の高い授業になっているといえる。学年別にみれば、1年生の平均が4.75、2年生の平均が4.59、3年生の平均が4.71で、全体的に高い数値である。ほとんどの生徒が、授業に興味関心もって、取り組んでいることが分かる。一部の生徒は、授業の内容やスピードについて行けなくなり、学習への意欲を失う生徒が出てきていることがうかがえる。地道にこつこつと努力をすれば必ず理解できる内容なので、諦めがちな生徒に対して、日頃から粘り強く細かい個別指導をして、生徒の意識を高めていくようにしたい。

教科名 (電子機械科)

概ね良好な評価ではあったが、興味・関心に関する設問の評価が少し低い。原因として、実習等では将来自分の進路で役立つこととして捉えているが、座学は「難しいこと」、「自分には必要ないこと」として捉え、知識として役立つイメージを具体的に持てないことが原因として考えられる。ICTの活用などによる見せ方の工夫も必要であるが、基礎知識として身につけておくことが工業人として必要で、実学であり生活の中で役立つ知識でもあることを実感させることが必要であると考え。 「知識・技能や考える力が身についた」という設問に対しての評価が低く、「授業への取り組み状況」に対する自己評価は高い傾向にあるが、理由の記述をみると、「授業中寝てはいない」「ノートを取り、宿題を提出している」といった事を挙げており、最低限度の状況で満足していると考えられる理由も、この興味・関心の低さが原因であろうと思われる。

教科名 (情報科学科)

全体的に4を超えており、良好な結果であった。2年生の値が他の学年よりも低い。実技や実習を伴う科目が増え内容がより専門的になり難易度も上がっていることや、作業が得意な生徒と不得意な生徒、コンピュータが得意な生徒と不得意な生徒の差が大きくなっていることも原因であると感じる。1年生の「7. 提出物は期限までに提出している」は改善されてきている。